

釧路市教育委員会 令和6年第17回10月定例会会議録

1 日時：令和6年10月24日（木）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、渡部給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曽根美術館長、竹内スポーツ課長、鈴木動物園長

4 議事録署名人 小出委員 榎山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）令和6年度「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催について

（2）学力向上協議の結果について

（3）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 令和6年度「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催について

(大島総務課長)

報告事項1、令和6年度「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催について報告する。

例年実施している教育懇談会について、令和6年11月25日（月）の午後3時から交流プラザさいわい3階大ホールにて開催する。

「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」の進捗について」を開催テーマとして、今年度も昨年度と同様、関係団体の代表者にご参加いただき、意見交換を行いたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

学校選択制の説明とあるが、具体的な案はまとまっているのか。

(大島総務課長)

現在調整中である。

【公開案件】報告事項

(2) 学力向上協議の結果について

(3) 学校の現状について

(齊藤総括指導主事)

報告事項2、学力向上協議の結果について報告する。

この学力向上協議は、本市の課題である学力向上について、各学校が主体的に学力向上改善策に取り組む意識を高めることと、教育委員会として有効な手立てについて指導助言することを目的に、全小・中学校ならびに義務教育学校の管理職や学力向上担当教諭と協議を行っているものである。

今年も昨年同様、本川教育指導参事及び学力向上担当指導主事で実施した。その協議の中で成果が上がっている学校の特徴、また逆に課題のある学校の傾向について、説明する。

成果が上がっている学校に共通していることは、資料に示した3点が挙げられる。1点目は授業改善と協働的指導の強化に取り組んでいることである。これは「釧路市が目指す授業」を用いて、授業改善の視点を設定し、教員全体で協力し指導を行っているということであった。

2点目は、子どもたちへの個別指導の充実と家庭との連携である。当たり前のことかもし

れないが、子ども一人ひとりの実態を把握し、学年や他教科の教員と情報を共有し、複数体制で支援できる体制を構築している点である。また、生活リズムチェックシートを用いて、家庭学習との連動を進め、保護者と協力して家庭での学習時間を促進するといった好事例も見られた。

3点目は、ICTの活用と学習習慣の確立である。成果が出ている学校は、家庭学習でもICTを活用するなど、学校と家庭の学びを繋げるほか、学習が苦手な子どもたちに対して、タブドリライブなどを用いて、学習意欲を引き出すなど、成果が出ている。こうした学校は、すでにICTを「利用」する段階から、効果的に「活用」するための方法を模索しており、子どもたちの学習意欲を高め、思考力や表現力を高めるための方法について研修を実施しており、さらに成果が出てくるものと思われる。

一方、課題のある学校の傾向については、昨年同様、自校の結果の要因分析の甘さや、教員全体で情報共有し、協働的に取り組む推進体制の整備が確立されていない、自校の実態を改善するための具体的な方策が示されていないといったケースなど、昨年度と比較し、校数は減ったものの依然として指摘した傾向が見られている。

学校指導係としては、全校共通の取組として、成果の上がっている学校の取組事例一覧を配布するとともに、校長の強いリーダーシップのもと、子どもたちの実態を的確に分析し、その改善に向けた具体的な取組を、全教員が一丸となって進めていくことについて、校長会で説明するとともに、特に課題の見られる学校に対しては複数回の学校訪問を行い、指導助言してまいりたい。

また、前回取り組んだ「プラス1プロジェクト」をより進めていく形で、資料にも示しているように、「プラス1プロジェクトⅡ」の取組を進めていく。

さらに、教員個人へのサポートとして、今年度から本格運用がはじまった、校務支援システムのメール機能を用いて、授業参観を行い指摘した内容について、資料と共に全教員に対して直接送付するほか、教員の悩みを解決できるよう、指導主事と先生方が直接コミュニケーションを図る取組を進めているところであり、今まで取り組んできたクラスルームによる交流とともに、さらなる充実に努めてまいりたい。

全国比マイナス5Pとなった学校に対しては、引き続き、冬季休業中や放課後の学習サポートにおける指導員の重点配置ならびに取組そのものの質の向上、タブレット端末の持ち帰りを徹底し、タブレットドリル等を用いた基礎・基本の定着を目指した家庭学習の充実に図るほか、指導主事が複数回出向き、授業参観を通して指導助言を図り、授業改善を基にした学力向上を図っていく。

(本川教育指導参事)

続いて報告事項3、学校の現状について報告する。

10月に入り、今年度の折り返し点を迎えたので、各校長には、ここでもう一度今年度の教育行政方針や教育推進基本計画を読み返し、自校の教育活動の進捗状況のチェックと学校経営方針の下半期での修正案の指針にするよう、指示をしたところである。

10月22日に、文部科学省の島尾学力調査官を招聘し、午前中に釧路小学校の5年生で

算数の授業を、午後に幣舞中学校の2年生で数学の授業を公開し、その後、算数数学科の授業を通した小中連携の在り方と授業改善について協議を行い、あわせて調査官から指導助言と、講話をいただいたところである。

授業について、小学校の算数、中学校の数学、ともに「釧路市が目指す授業」の形に沿った子どもたちが主役の大変良い授業であった。

学力調査官の講演では、この2つの授業を通してと、今年度の全国学力・学習状況調査問題の出題意図や誤答の分析結果を交えての情報提供があり、およそ100名を超える参加者がいたが、授業参観、講演ともに、非常に有意義なものとなった。

今回と同様に、来たる11月18日には、同じく文部科学省の数学科の水谷視学官を昨年度に引き続き招聘し、幣舞中学校で3本の数学の授業を行い、そのうちの1本は昨年同様に赤本指導主事が授業を行う。

いずれも文部科学省の調査官、視学官を招いての企画で、ここで得たものについては、当日参加した先生方はもとより、参加できなかった、あるいはしなかった市内の先生方に何らかの形で情報を共有し、市を挙げて、算数数学科の課題の解決に取り組んでまいりたいと考えている。

また、今月末から12月の初めにかけて、小学校6校、中学校4校で、のべ12本の算数・数学の授業を、市教委の赤本純基指導主事と佐藤義人指導主事が示範授業と称して学校に出向いて行う。会場校やジョイントの近隣小中学校の教師らに、釧路市が目指す授業のあり方を、身をもって示すことにより、各学校での授業改善に役立ててもらおうと企画した。

指導主事が学校現場に出向いて授業を行うことは、これまであまり例がないことだと思うが、授業を行う指導主事も相当の覚悟を持つての取組となる。市教委としても本気で授業改善を進めようとしているとのメッセージ性の発信とともに、これまでのように印刷された発行物を通しての指導・啓発だけではなく、実際に生の授業で体現して先生方に観てもらうことで、より効果的で、授業改善への意識の高揚が図られることに期待したいと考えている。

当初、9月頃からの実施を考えていたが、この時期にずれ込んでしまった。一定の成果が見られるようであれば、2月にも数校で実施したり、次年度は早い時期からこの企画を今年度行っていない学校を中心に進めていきたいと考えている。

4月にプラス1プロジェクトと称して各学校、あと1つの取組をと促したが、学校間による温度差が多少なりともあったことは否めなかった。

今回は、12月6日の標準学力検査に向けて、プラス1プロジェクトⅡと称して、必ず何らかの取組を行うよう指示したが、この目的は、単に標準学力検査の平均正答率を上げることだけではなく、平成28年度にこの標準学力検査を4月実施から12月実施に変更した意図を、もう一度各学校で先生方にしっかりと理解してもらい「誰一人取り残さない」という視点からも、教える側の責務を自覚させるよう校長会議で説明をしたところである。是非とも、目標を達成したいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

10月から12月に小学校6校、中学校4校で、算数数学の示範授業が行われるという話であるが、とりわけ中学校の方で、会場校になった学校の他教科の先生も、この授業を見てもらい、自分の授業に活かせる部分を学んでもらいたい。またその授業を題材にして、校内で先生方が話し合う場面があっても良いと思う。当該学校には強く呼びかけてほしいと思うがどうか。

(本川教育指導参事)

すでに自校のみならず、小中ジョイントの近隣小中学校にも呼びかけているところである。ある学校では示範授業を5時間目に設定し、ジョイント校は午前授業にして、全員で参加できる体制を考えていたり、すべての学級を自習体制にするのは難しいという学校については、数学科に限らず、他教科を含めて可能な限り参加するという体制を考えている。算数数学に限ったものではないことは各学校に強調しているので、今後も啓発していきたい。

(靱山委員)

報告事項2の学力向上協議の結果について、教育委員4名で、ある小学校に訪問した際、生活面の指導に力を入れているという話を聞いた。その結果、生活面が安定したことにより、授業を受ける児童の質や集中力が高まり、そこから学力向上に結びついたという話を伺ったときに、改めて生活面の大切さを知った。

その学校は生活面の改善を教員一丸となり取り組んでいるということで、例えば教員が学年やクラス関係なくどの児童にも話しかけ、注意ができるという状態であり、朝会等の場面では校長が全校児童に対して話しをしたときに、各教員がその内容をクラスに持ち帰り、児童に考える場面を設けており、学校全体が連動している良い状況だと感じた。実際に授業を見たときにも、児童が明るい印象を受けたことから、生活面からのアプローチも効果的なのではないかと思った。特に成果が上がっている学校の取組事例で①の協働的指導という中にも盛り込まれてくる部分だと思う。

(齊藤総括指導主事)

生活リズムという部分は非常に大切に、特に小学校の段階では生活リズムが基盤となっており、子ども達が生活をしっかり整え、家庭も協力し、学習に向かうことが自分の成長に繋がっているということを実感させることが重要だと感じている。また、最近先生方と話しをする中で、特にキーワードとして出ているものが「共有」という言葉である。先生方がいかに情報を共有するかという点がとても大事で、例えば授業改善の方法の共有、児童生徒の情報の共有等、いろいろな共有があり、それがしっかりできているというところがこの協働的指導の強化という部分に繋がっていると思う。こうした学校を増やしていくことがとても大事であり、校務支援システムが導入されていることから、その点の共有をどのように環境整備していくかを教育委員会としてしっかり進めていかなければならないと認識している。

(小出委員)

取組事例が詳しく書かれており、成果が上がっている学校の要因を認識することができた。

各学校においてもこの結果を読むことで、自分の学校ができていることとできていないことを自覚できるのではないかと思う。先ほどの説明で、各学校の先生に直接授業改善のポイントを送るという説明も聞かせていただき、そこまで踏み込んでいただけてありがたいと感じた。先ほど靫山委員からの話にあった小学校と一緒に訪問したが、そういった学校は先生達のチームワークが良いということが分かり、なぜ良いのかというと、目指すべき方向を校長先生が示せているというところが大きいと思った。各校長先生が、明確に先生方に説明できる目標を持つというところが大事であると感じた。

学力が上らない学校は、どのように子ども達を授業に向かわせるかという部分に苦慮していると思うので、引き続きそういった視点は大事になってくる。子ども達をしっかりと見て、子ども達に寄り添っていただけたら良いと思う。

(齊藤総括指導主事)

先生方一人一人に指導助言した内容を送るという取組は今年から始めているが、これは校務支援システムが導入された大きな成果だと感じている。初任段階の先生方に対しては、初任段階指導主事サポートという事業を実施しており、指導主事が1時間の授業を見て、授業改善について指導主事と直接話し合いを実施し、具体的に指導助言したポイントを、今までは該当の先生のみに送っていたが、学校の共通の課題となることから、所属の学校の先生方全員に示すこととしている。先生方からは評判が良い状況であるので、こういった取組を継続していきたいと考えている。来年度以降の考えとしてさらに踏み込むのであれば、双方向のコミュニケーションができることが理想であり、例えば先生方が指導主事に聞いてみたいことや、こういった授業をしたいが良い手立てがないか等を相談できる体制ができればと考えているが、実施にはハードルが高いこともわかっているので、具体的な方法についてしっかりと考えていきたい。

(大山委員)

教育委員会で結果をまとめ、校長先生方にその結果を渡しているかと思うが、問題は末端の先生方まで意識が変わるかどうかということであり、残り半年間で具体的に何か手立てを考えていかなければならないと思う。例えばその校長先生方の危機意識がどの程度なのかという点である。以前までは教育委員会として課題を出してきたが、校長先生方は自分の学校の状況を考えたときに、自分たちが何をしなければならないのかということ、校長先生方自身に考えてもらう必要がある。校長会として来年度から市内全校でこういった取組を実施すると先生方にメッセージを出すようなところまで進める必要があると感じている。教育委員会は一生懸命頑張っているが、その取組が最終的に先生方に届かないのであれば、その間に入っている校長先生方にも頑張ってもらい、校長会として先生方にメッセージを伝えるような方法が必要であると思っている。残り半年で検討していただければありがたい。

(本川教育指導参事)

校長先生は約40名いるが、学校の状況や校長先生自身の意識については、学校間の温度差があることは事実である。「徹底」という言葉をキーワードとして、市内全小中義務教育学校の全教員が同じ意識を持てるよう、下半期は徹底させる方法を考えたうえで、校長会にて

協議を進めていきたいと思う。次回の定例教育委員会になるかはわからないが、早い段階で報告できるよう取り組んでいく。